

復刻版

前期 女人芸術

発行年：1923 年 7・8 月

全1巻

「友と二人の雑誌は生れることになった。

女人は三界に家なしと

——私は今こそ心の住家を得た心地がする。」

長谷川時雨（創刊号より）

才溢れるあまたの女性作家を輩出した
雑誌『女人芸術』創刊前に刊行された
長谷川時雨・岡田八千代による
幻の同人雑誌『前期 女人芸術』
全2冊を完全復刻！



刊行●2025年10月

定価●10,000円＋税（税込11,000円）

ISBN978-4-86617-321-4

体裁●A5判・上製・総152ページ

解説●尾形明子（日本近代文学研究者）

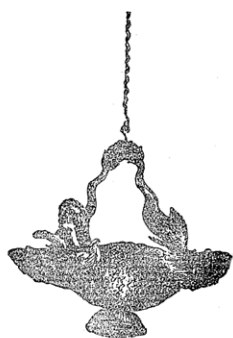
六花出版

戦前期の女性解放・地位向上へつながる、自己表現を
あきらめなかった女性作家2人による原点としての1冊！

戦前女性文学の礎を築き上げた 文芸雑誌『女人芸術』の前身誌

帝劇と御園座との菊地寛兵衛の「義民義兵衛」を見た、
作者は、義兵衛を愚か者として取り扱って居られるや
うであるが、舞臺に表はれた處の義兵衛は決して全篇
馬鹿とは受けとれぬ處がある、殊に大団の尋常近頃の
義兵衛の弟達に向つての白に「長い事義兵衛をいぢめ

宗十郎義之助との「義民
義兵衛」



劇評

てくれて有難う」と皮肉を言つたり、弟達の首を斬ら
れるのを見て「あゝ胸が透いた」といふやうな事を言は
してゐるのは馬鹿の言ひ草とは思はれぬ。又「義民義
兵衛」と作者が鈍を打つたのもよく通つてゐないと思
ふ。然し、「茅の屋根」でも見せやうとしたやうな此作
者の作物の色の一部である世の中はかうしたものだ
といふやうな皮肉が笑ひは出てゐる。只庄屋の家の場
の「義兵衛の心持を源次郎の技巧に待つた事は物足

省線の下の方から出て来た女二人男一人、美し
い方が女が、可愛らしい召使らしい女に、
「ではね、私先きへ歸るから、お前好い加減の時に
歸つて来て頂戴、上手にね。」
召使はニコと笑つてうなづいた、美しいのは男の
顔を一瞥見して、一寸残り惜しうにしたが、四邊の
人を見ると、急に淫した顔になつてつつか／＼と出て行
つた、店の若い番頭らしい男と可愛らしい召使とが顔
を見合せて、
大きな荷物を持つた田舎の女らしいのが、ステエシ
ョンの掃除婦に聞いている。
「東京の……さういふ人は此處にゐますかね。」
「知りませんね。」
「わい、その人が此の驛で待つて居るので出て來ま
したのだからね。」

拾 人に 譯 する

六月、七月

見るまゝに思ふまゝに

大阪文藝の人物形が来たので見物にいつてこ
なことを考へた、無表情な、鋭い、青く、あれの
顔が好きだ、ことに女形人形についてさう思つ
た。吉田文五郎の思ふ通りに人形が生れて、死んで
居る顔に血の氣がさして、眼が輝きやうなんでく
る。胸が波立つて動もきこえる。肩が小刻みに顫へ
てゐる。床の太夫が世態人情の痛苦を綴々切々と、哀
音を振舞つて訴へ、嘆くにつれ、人形は涙を流し、態な
き態をもつて指を打つてくる。至極といふは、技の極
致といふは、かしかながら義太夫節がなかつたれば、
どんなものになるか？
時として人形は、ガデと胸があつたやうに、人形同
士の人情が火死のやうに美しくきらめいて見える時が

ある。實感がともなはないだけに人間同士より遠慮が
なくてやりよい場合があるのかも知れない。但し、あ
の絡々としてつきぬ態を、きこくど、濃厚な情の
ものには適しても、命を投げつけて、短かい歡樂を盡
した江戸調のものにはとても適さない。と、そんな風
にも思へた。或は昔日から誰人も考へつくし、思ひつ
くしたものであらうかも知れないが……
人形そのものから言つても動きのあるものの方が重
いのであらうが、文五郎は菅原の千代と、忠臣蔵八段
目通行の小説と、堀河のお俊とを見せてくれたが、寺
小屋での千代は實に驚かされてゐた。よいからとも
見せた。然しながらわたしは通行の小説を推薦する。
これははじめに見るのではないが、いかにもあつたやう



長谷川時雨 (1879~1941年)【右】

劇作家、小説家、初の女流歌舞伎作家。

雑誌『女人芸術』、機関紙『輝く』主宰として女性作家進出に大きな役割を果たす。

代表作に劇作「花王丸」「江島生島」、回想録「旧聞日本橋」、女性たちの評伝『美人伝』『近代美人伝』がある。

岡田八千代 (1883~1962年)【左】

劇作家、演劇評論家、小説家。

児童劇団・芽生座、女性劇作家の育成を目的とした日本女流演劇作家会を創設。

代表作に戯曲「黄楊の櫛」、短編集『絵具箱』、随筆『若き日の小山内薫』がある。

*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-28 電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <https://rikka-press.jp>

2025-10